

# 3 いしかわCFP算定モデル

# 3-1 「いしかわCFP算定モデル」

## モデル事業 1 / CFPの算定フレームワーク

地域の産業特性に応じた各社でのCFP算定の考え方、  
方式をモデル開発する事業

国ができていないことを  
ボトムアップで実施

## モデル事業 2 / 人材育成を通じた普及活動

人材育成活動を通じてCFP算定方式を各社へ普及  
させるモデル開発する事業

人材育成、普及の方法

## モデル事業 3 / 価値創造の支援

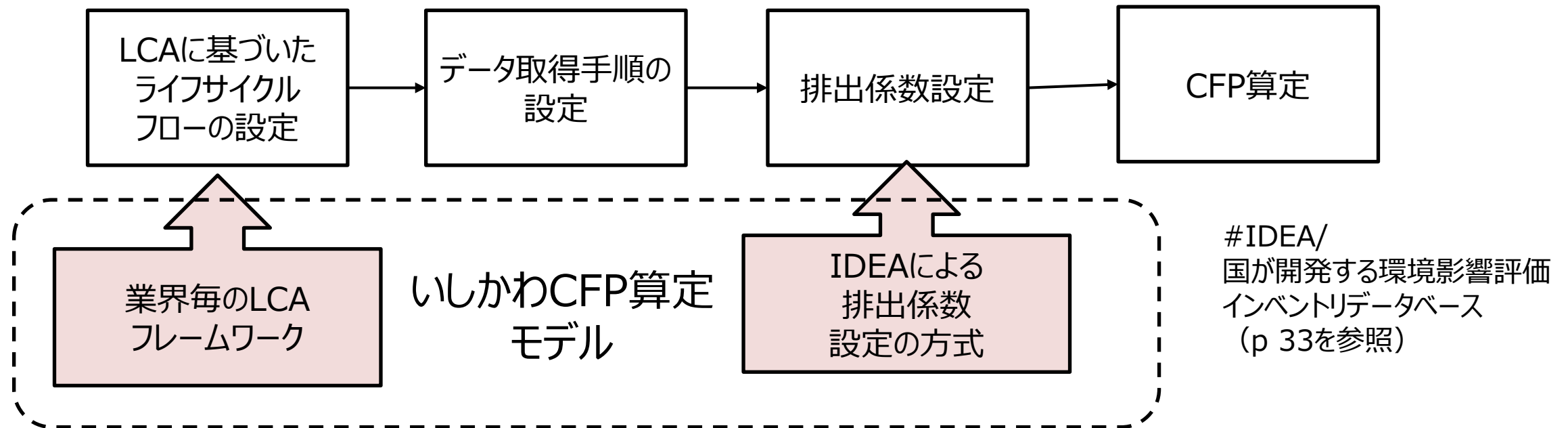
CFP算定を通じて、地域各社の価値づくりを推進する  
モデル開発とその支援事業

企業、地域での価値作り

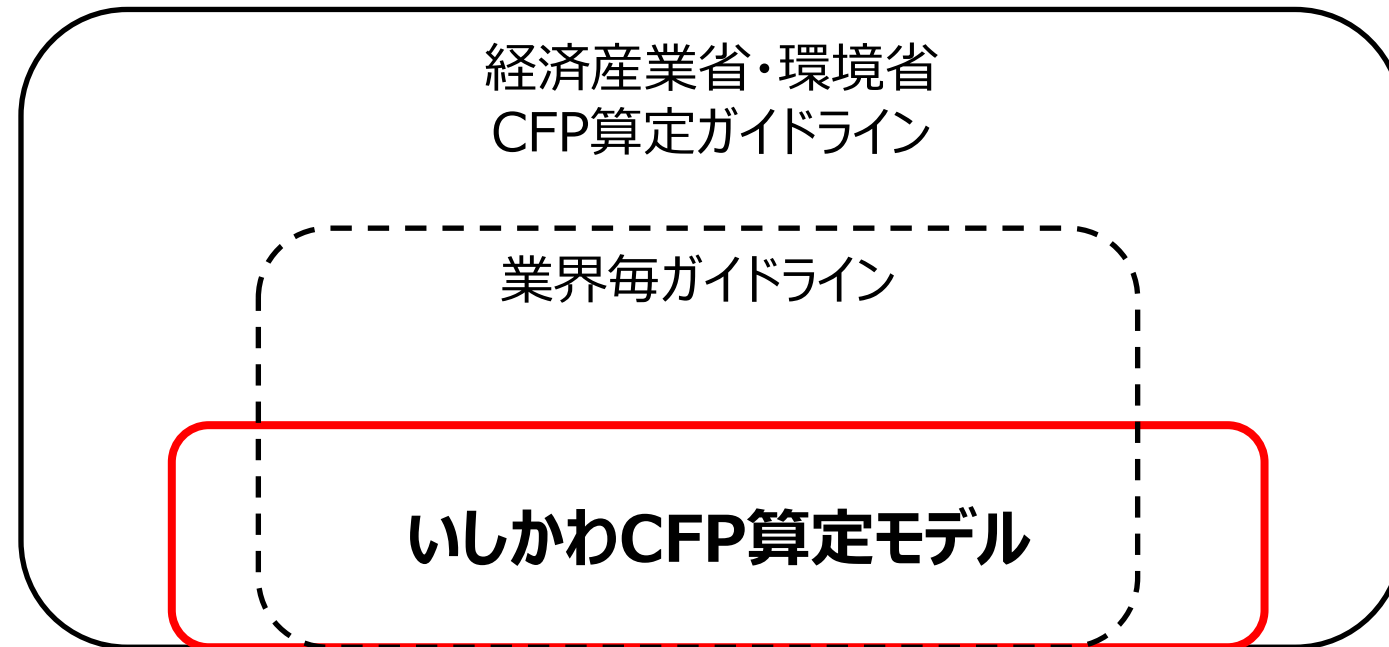
国ができていないことを  
ボトムアップで実施

地域の産業特性に応じた各社でのCFP算定の考え方、  
方式をモデル開発する事業

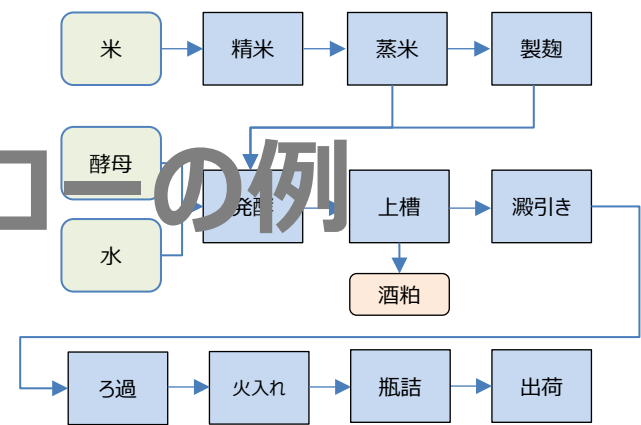
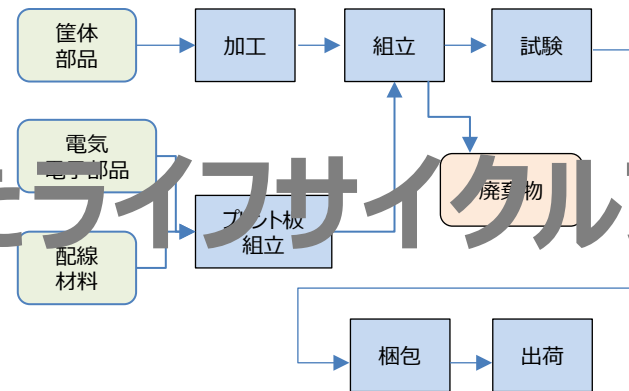
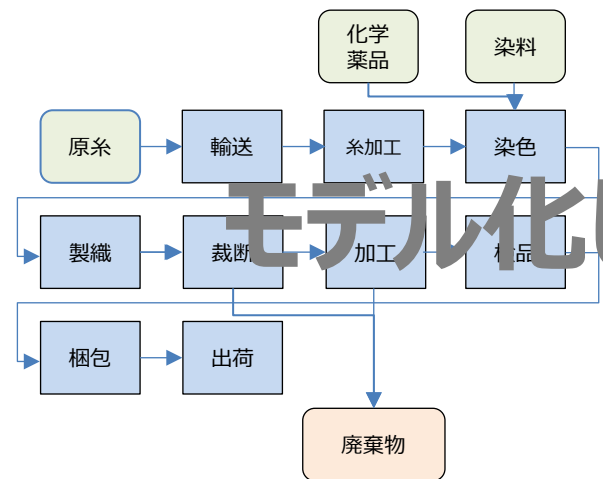
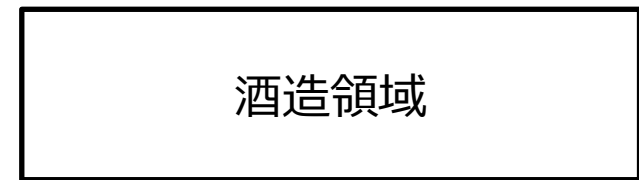
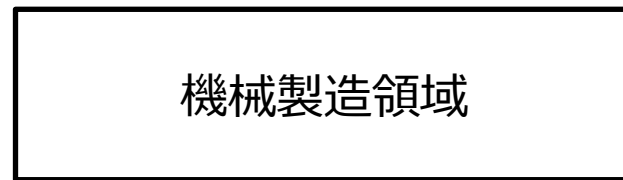
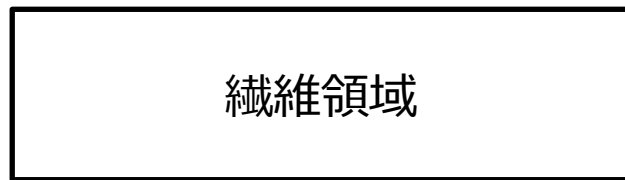
経産省、環境省で定めているガイドラインの枠の中で、各業種への適用へ向けた指針を設定



## 経産省、環境の設定するCFP算定ガイドライン

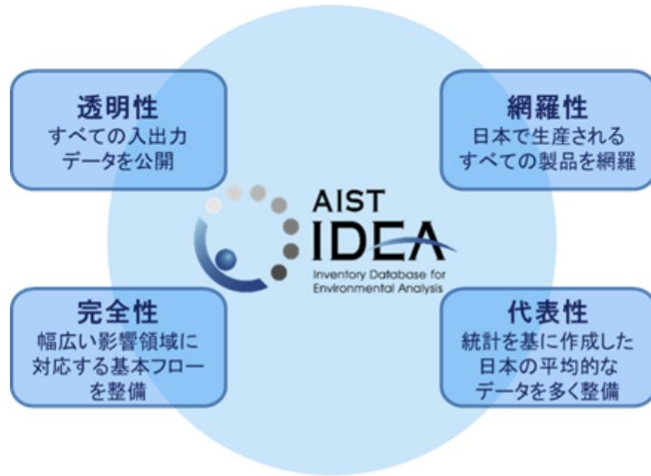


先行して以下の3業種に対するCFP算定の枠組みと排出係数の割り当て方のガイドラインを整備する



モデル化したライフサイクルフローの例

## CFP算定のための算定係数として「国家データベースIDEA」を基盤にガイドライン化



国（産総研）が開発する環境影響評価インベントリデータベースです。IDEAは網羅性、代表性、完全性、透明性を担保できるように開発を進められています。特に網羅性に関しては、日本国内のほぼ全ての事業における経済活動をカバーし、全データを「日本標準産業分類」「工業統計調査用商品分類」に基づいた分類コード体系で作成しています。また、データは統計をベースに作られているため、日本の平均的な製造方法やサービスのデータとなっており、代表性を確保しています。



このAIST-IDEAデータベースは、産総研 製品目録以下のユーザーライセンスされています。

40-4544、このデータベースは、環境影響評価（EIA）と環境影響評価（EIP）の算定に使用するために開発されています。以下のようないくつかの制限事項があります。このデータベースは、以下のようないくつかの制限事項があります。このデータベースは、以下のようないくつかの制限事項があります。

製品コード	IDEA製品名	業種	用途	単位	PCC 2021 with LULUCF		PCC 2013 with LULUCF		PCC 2007 with LULUCF		PCC 2021 with LULUCF		PCC 2013 with LULUCF		PCC 2007 with LULUCF	
					100% with LULUCF	100% without LULUCF	100% with LULUCF	100% without LULUCF	100% with LULUCF	100% without LULUCF	100% with LULUCF	100% without LULUCF				
11100000GLO	玄米、4桁 GLO	GLD	GLD	1kg												
11100000JPN	玄米、4桁 JPN	JP	CORE	1kg												
11110000GLO	玄米、GLO	GLD	GLD	1kg												
11110000JPN	玄米、JPN	JP	CORE	1kg												
11200000GLO	麦類、4桁 GLO	GLD	GLD	1kg												
11200000JPN	麦類、4桁 JPN	JP	CORE	1kg												
11210000GLO	小麦、GLO	GLD	GLD	1kg												
11210000JPN	小麦、JPN	JP	CORE	1kg												
11220000GLO	雑穀、GLO	GLD	GLD	1kg												
11220000JPN	雑穀、JPN	JP	CORE	1kg												
11230000GLO	六条大麦、GLO	GLD	GLD	1kg												
11230000JPN	六条大麦、JPN	JP	CORE	1kg												
11240000GLO	ビール麦、GLO	GLD	GLD	1kg												
11240000JPN	ビール麦、JPN	JP	CORE	1kg												
11240000GLO	その他の麦類、GLO	GLD	GLD	1kg												
11240000JPN	その他の麦類、JPN	JP	CORE	1kg												
11300000GLO	豆類、4桁 GLO	GLD	GLD	1kg												
11300000JPN	豆類、4桁 JPN	JP	CORE	1kg												
11310000GLO	大豆、GLO	GLD	GLD	1kg												
11310000JPN	大豆、JPN	JP	CORE	1kg												

## 人材育成、普及の方法

人材育成活動を通じてCFP算定方式を各社へ普及させるモデル開発する事業（教育のやり方）

### ステージ1: セミナー



脱炭素の意義を  
企業の事業活動の観点から学ぶ

### ステージ2: ワークショップ



CO<sub>2</sub> 排出量算定の基礎を  
ライフサイクルアセスメント  
の観点から学ぶ

### ステージ3: フォローアップ講座

#### ■ 算定方針の検討

- ① 目的の明確化
- ② 対象製品の選定
- ③ ライフサイクルステージの決定
- ④ 参照規格・基本方針の決定

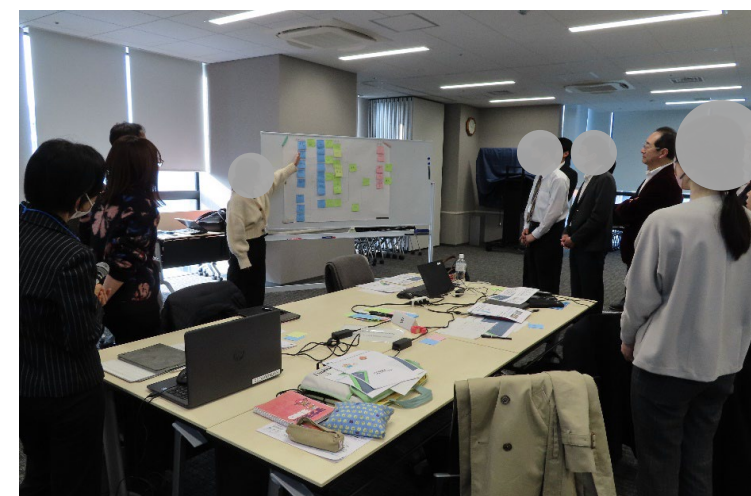
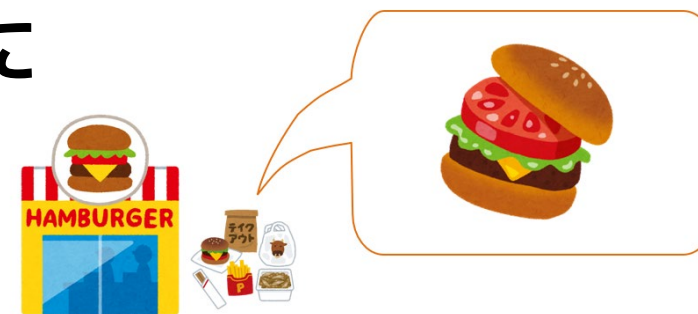
#### ■ 算定範囲の設定、CFP の算定

- ① バウンダリーの設定（ライフサイクルフロー）
- ② カットオフの基準の検討
- ③ 算定ルールの設定・算定の実施
- ④ 算定手順書の作成



個社の製品・サービスごとの  
CFP/CO<sub>2</sub>排出量算定

## ワークショップの様子、ハンバーガ・ビジネスをテーマに

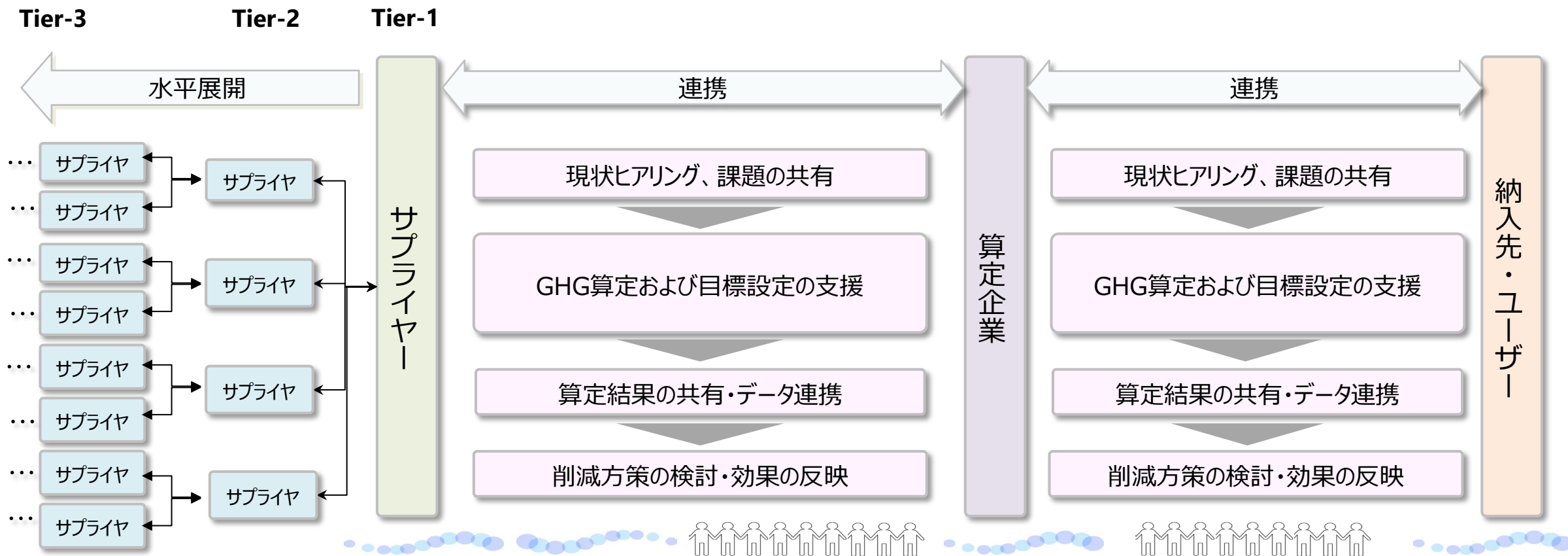


**CFP算定では業務の流れを的確に把握できていることが肝要、それを学ぶ**

# モデル事業 2 / サプライチェーン連携の例



サプライヤ各社と協力し合って進めていくことが、サプライチェーン全体での競争力を高めるとともに、業界全体の成長と環境社会への貢献に繋がる



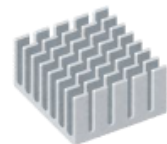
## 企業、地域での価値作り

CFP算定を通じて、地域各社の価値づくりを推進する  
モデル開発とその支援事業（企業内での価値作り）

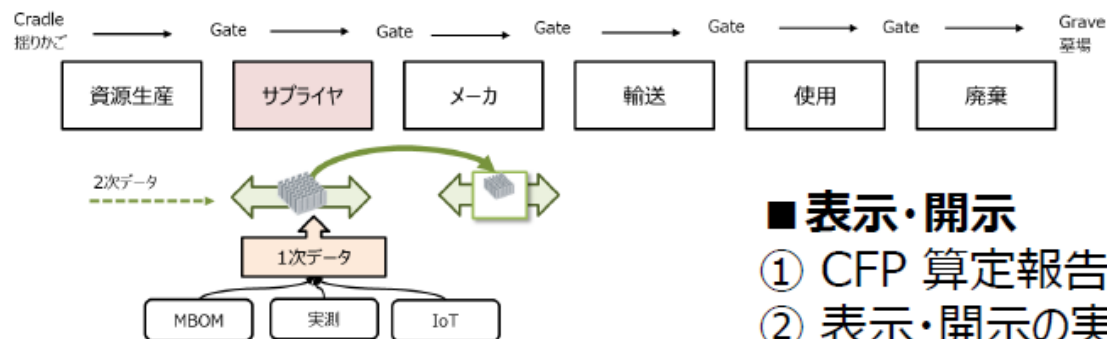
ステージ1:  
セミナー

ステージ2:  
ワークショップ

### ステージ3: 個社対応のフォローアップ講座（以下は例）



- セットメーカーとサプライチェーン連携する試行を推進
- 混流生産におけるロット毎1次データの取得方法を模索
- 生産管理システムと連携して品番毎の1次データを取得



#### ■ 表示・開示

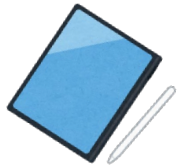
- ① CFP 算定報告書の作成
- ② 表示・開示の実行

個社の製品・サービスごとのCO<sub>2</sub>排出量算定と  
各社の付加価値向上に取り組む

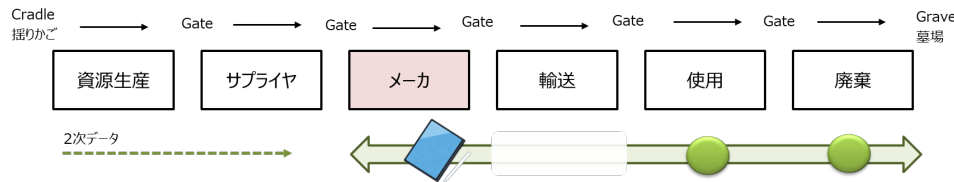
# モデル事業 3 / 価値向上への取り組み事例 (1)



## タブレット製造



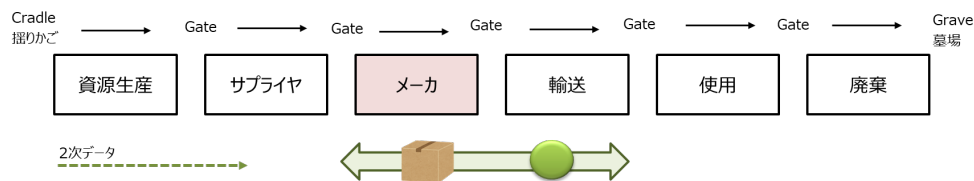
- 主力のタブレット製品を選定
- リサイクル・リユースを打ちだし、使用・廃棄まで対象に
- **自社製品の環境対応先進性を市場へ訴求**



## エネルギーサービス



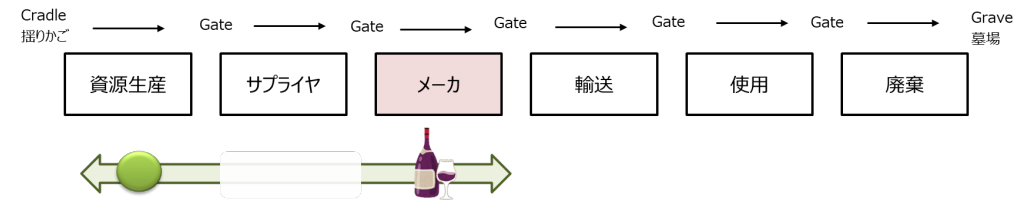
- 灯油の定期巡回配送サービスを選定
- 地域のエネルギーインフラとして供給責任を果たす一方、**持続可能な地域社会や産業の発展に向けて脱炭素に貢献する施策としてユーザにアピール**



## ワイン醸造



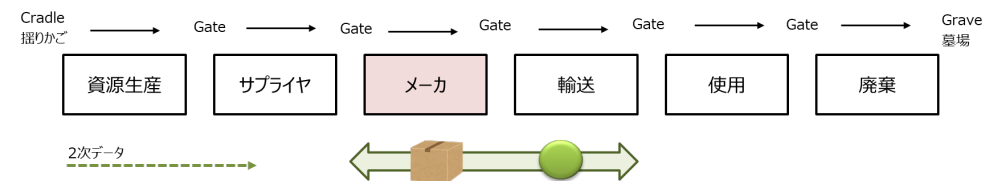
- ボリュームゾーン、主力のワインを選定
- ブドウの自社栽培を活かし、上流生産まで対象に
- **高級ワイン市場のユーザ層に対し、サステナブルレポートでメッセージを発信**



## 段ボール製造



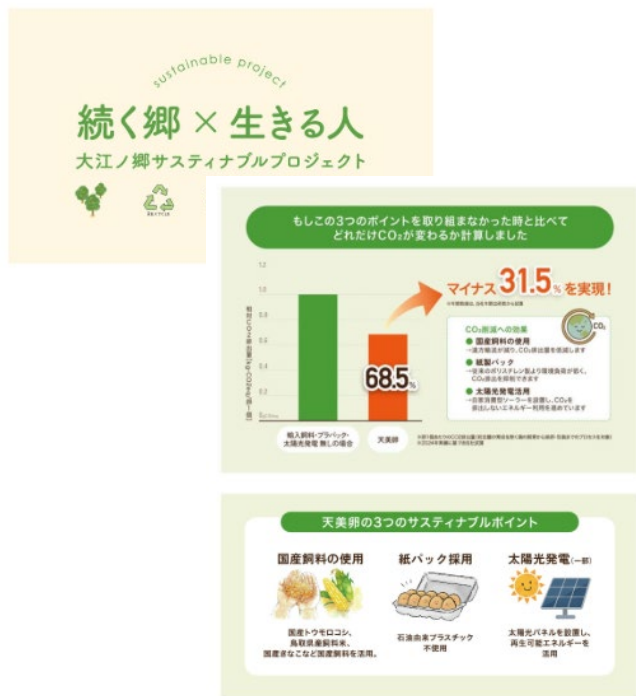
- 古紙利用、材料リユースのライフサイクルに注目
- **脱プラ加速のための段ボール活用の効果に訴求**
- **ローカルデリバリの有効性を明らかにして競争力を獲得**



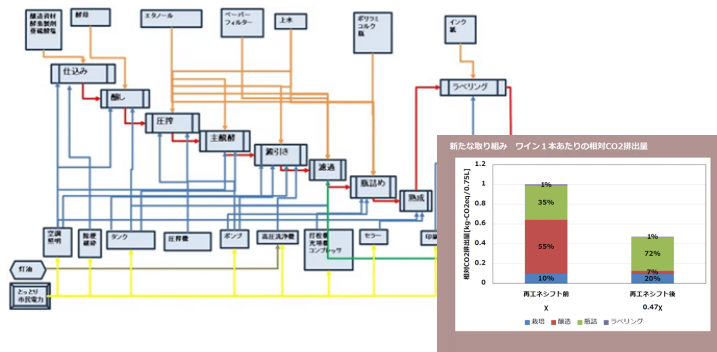
# モデル事業3 / 価値向上への取り組み事例 (2)



## 大江ノ郷自然牧場/ひよこカンパニー (食品業)



## 兎ッ兎ワイナリー (ワイン醸造業)



## 日ノ丸産業 (株) (エネルギーサービス業)

お知らせ

### 灯油の定期巡回配送サービスでCO<sub>2</sub>を削減

2025年3月31日

日ノ丸産業株式会社(本社:名古屋市東区2丁目、代表取締役社長:森下明男)は、以前より令和6年度事業「サブライチェーンCO<sub>2</sub>排出量見える化変革推進プロジェクト」に取組む。取組で取組んでいる灯油の定期巡回配送サービスによるCO<sub>2</sub>排出量を算定しました。その結果、本サービスの利用によりCO<sub>2</sub>の排出量を最大4.3%削減できることが分かりました。

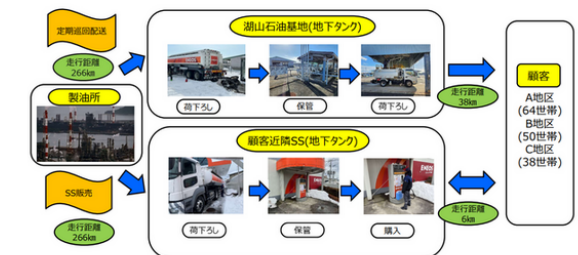
※CO<sub>2</sub>排出量は定期巡回サービスと各世帯が最寄りのガソリンスタンドで灯油を購入したケースを比較。製造所からご家庭までのサプライチェーン全体で21%削減。名古屋市での配送に限り4.3%削減削減できました。

#### <定期巡回サービスとは>

毎月決まった曜日あらかじめ設定されたルートでの灯油を配送するサービスです。事前の連絡は不要で、各ご家庭の料先で指定のポリアンクに灯油を補充していきます。

#### <算定内容>

名古屋市での弊社の灯油定期巡回配送サービスと、お客様が最寄りのガソリンスタンドで灯油を購入された場合のCO<sub>2</sub>排出量を算定し、比較しました。製造所からランニングコストで輸送し、湖山石油基地より走行距離で268kmのルートで巡回配送。対象顧客は1日約80世帯で、個人購入の排出量は近隣スタンドまでの距離が約6kmで算定しました。



#### <弊社からのメッセージ>

弊社では日ノ丸より脱炭素社会の実現に貢献できるサービスの提供を心掛けております。今回の支援事業への参加もその一環で、今後も最前線の社外や生活の対応に立ってより良いエネルギー・脱炭素に取り組んでまいります。

ウェブサイト、サステイナブルレポート、パンフレットなどで  
自社の脱炭素活動、CFP算定活動を発信して、自社の取り組みを市場へ伝える

# モデル事業3 / 価値向上への取り組み事例 (3)

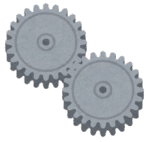


## 自動車用ゴム部品



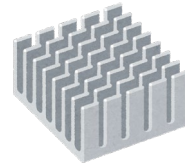
- 車載用シリコンゴム製品を選定
- 原材料 (Scope 3 カテゴリー 1) も対象に
- **原材料サプライヤーから1次データを入手**  
=> **排出量が大幅削減**

## 自動車用鍛造部品

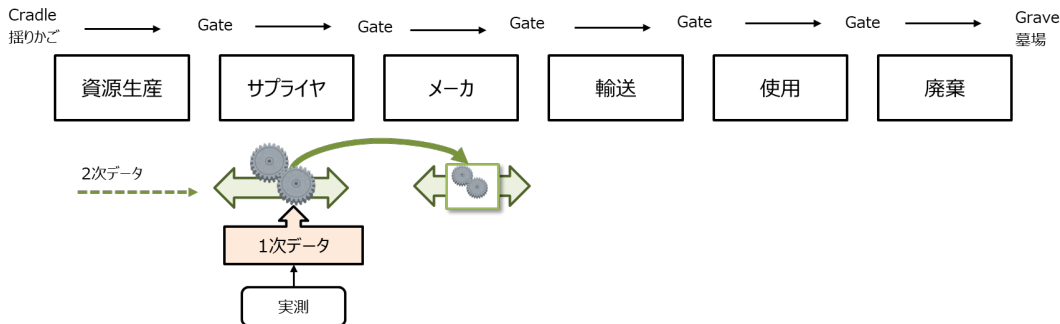
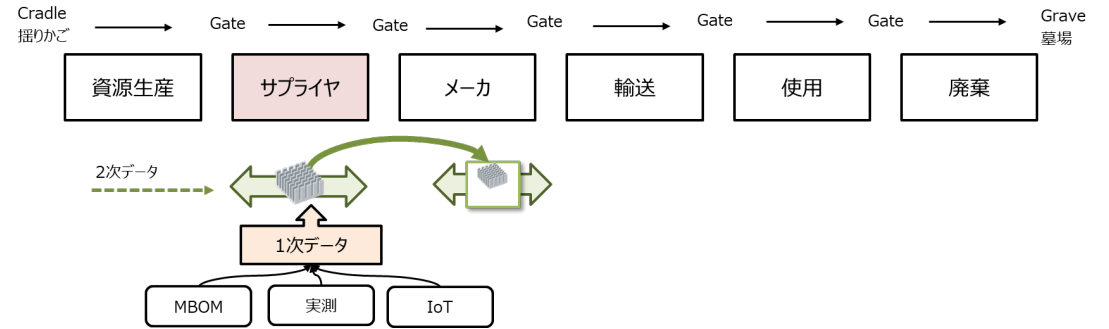


- 自動車メーカーのサプライヤーとしてCFP算定を求められている
- **鍛造工程でのエネルギー使用量を明らかにして省エネ化**
- 鍛造機の電力計測を積み上げて確からしさを獲得

## 精密プレス部品



- **セットメーカーとサプライチェーン連携**する試行を推進
- 混流生産におけるロット毎1次データの取得方法を模索
- 生産管理システムと連携して品番毎の1次データを取得



# 3-3 「いしかわCFP算定モデル」事業の進め方

# 本事業の活動計画

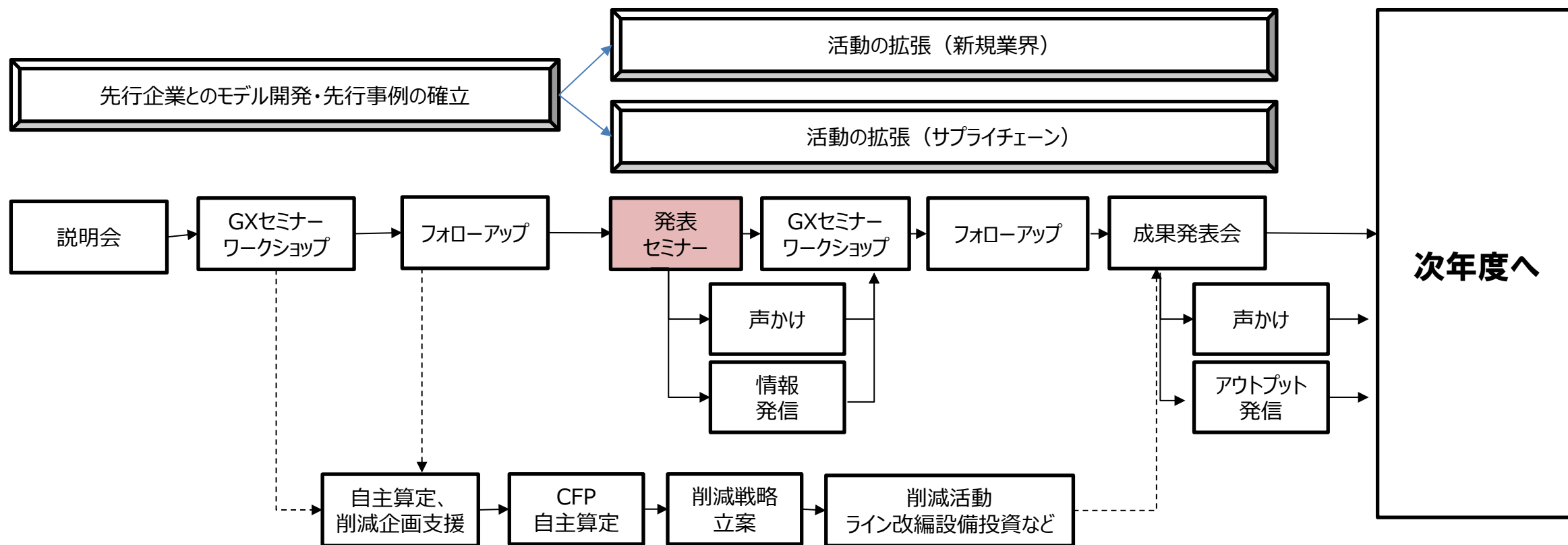


## Phase-1 (準備活動)

## Phase-2 (活動発表)

## Phase-3 (展開活動)

## Phase-4 (活動まとめ・発信)



# 各フェイズの活動内容、目的・狙い、対象



Phase		活動	目的・狙い	対象
Phase-1	基礎活動	説明会	活動目的・内容を周知する	リード企業候補 リード企業サプライヤー
		セミナー・ワークショップ	CFP算定を知る	
		フォローアップ	CFP算定を学ぶ・価値向上に取り組む	
Phase-2	活動発表	発表セミナー	先行モデル活動を紹介する	
		情報発信	活動を発信する	
Phase-3	展開活動	セミナー・ワークショップ	CFP算定を知る	
		フォローアップ	CFP算定を学ぶ・価値向上に取り組む	
Phase-4	活動まとめ・発信	成果発表会	活動成果を発信する	
		情報発信	活動を発信する	